愛知県の交通事故削減のための取組

愛知県の交通事故死者数は、増減を繰り返しながらも、大局的には減少傾向で推移しているが、平成１５年から１４年連続「全国ワースト１位」と不名誉な記録を更新した。

こうしたことから、平成２９年には「全国ワースト１位」を必ず返上し、それを維持し続けるためには、愛知県下の自治体が情報共有を図り、一体となって交通事故防止対策に取り組んでいくことが重要になってくる。

◆　具体的な取組提案

■取組１：歩行者保護モデルカー活動の実施

●豊田市の取組

豊田市では平成２８年１１月から「交通事故死"全国ワースト１位"返上を豊田市から」をスローガンに、豊田警察署、足助警察署、豊田商工会議所等と連携し、「歩行者保護モデルカー活動」を市内で展開している。

«３つの実践項目»

委嘱事業所等の車両に「歩行者保護モデルカー」のステッカーを貼り、事業所のドライバーが３項目を実践した運転を行うことにより、安全運転のけん引役を担う。

◆速度遵守	速度が上がると、停止距離が伸びて事故回避が困難になるとともに、事故による致死率も上昇するため、ドライバーに対して「速度遵守」の徹底を図る必要がある。
◆ハイビームの活用	夕方から早朝にかけて交通死亡事故が多く発生しその大半が「ロービーム」による事故であるため、ドライバーに対して「ハイビームの活用」を促す必要がある。
◆歩行者優先	横断歩道は、歩行者優先であり、ドライバーに対して「横断歩道で歩行者等を見たら必ず止まる」歩行者保護意識の高揚を図る必要がある。

«活動車両»　約１，７５０台

◆委嘱事業所（豊田警察署・足助警察署・豊田市長の連名による委嘱）
- ・市内１６事業所　　１，２４１台（トラック・バス・タクシー・宅配等）

◆愛知県から同様の活動の委嘱を受けているトヨタ自動車
- ・トヨタグループ　　１８９台（トラック・バス）

◆豊田市役所
- ・市役所の率先行動として　３１８台（基幹バス・清掃車・公用車等）

«その他の取組»

◆「交通事故死"全国ワースト１位"返上を豊田市から」の横断幕等を掲示
- ・６１か所８２枚（幹線道路の歩道橋、公共施設、委嘱事業所等）

◆ハイビーム看板の設置
- ・人身事故が多発している生活道路４路線を「ハイビーム活用路線」として設定し、看板「ハイビームを活用しましょう」を設置　２２か所

平成２９年１月１２日
説　明　資　料
豊　田　市

«取組の効果検証»　詳細：裏面のとおり

◆交通事故発生状況及び横断歩道 STOP 率調査
…取組を開始して２か月で、まだ目に見えた成果は表れていない。

◆運転免許証更新時の市民へのアンケート調査（１２月）
…「歩行者保護モデルカー活動」の認知度はまだまだ低い。

◆委嘱事業所のドライバーへのアンケート調査（１２月）
…３つの実践項目を基にドライバーの交通安全意識はかなり高まっている。

«今後の取組»

◆愛知県の交通事故死者数「全国ワースト１位」を返上するため「歩行者保護モデルカー活動」の協力事業所を更に増やし、交通安全意識の高いドライバーを増やす取組を市内外に働きかけていく。

STEP１ ４月の「春の交通安全県民運動」から西三河ブロックでの展開を目指して
第１回連絡会議　２月１０日　西三河ブロック自治体（部課長）で開催
STEP２ ７月の「夏の交通安全県民運動」から全ブロックでの展開を目指して
第２回連絡会議　５月中旬　交通・防犯部課長会議と同日開催
STEP３ 第３回以降の連絡会議：必要に応じて開催（交通事故情勢により）

■取組２：「交通・防犯関係部課長会議」の開催

現在、市長会で年１回定期的に開催されている「防犯関係部課長会議」を「交通関係」も含めた会議体とし、交通事故防止対策及び犯罪防止対策を一体となって推進する。

«会議の運営»

◆開　催：年１回…提出された議題を基に情報共有を図り一体となった対策を推進
◆当番市：市制施行順で持ち回り（平成２９年度の当番市：安城市）
◆事務局：市長会事務局

«想定される議題：交通関係»

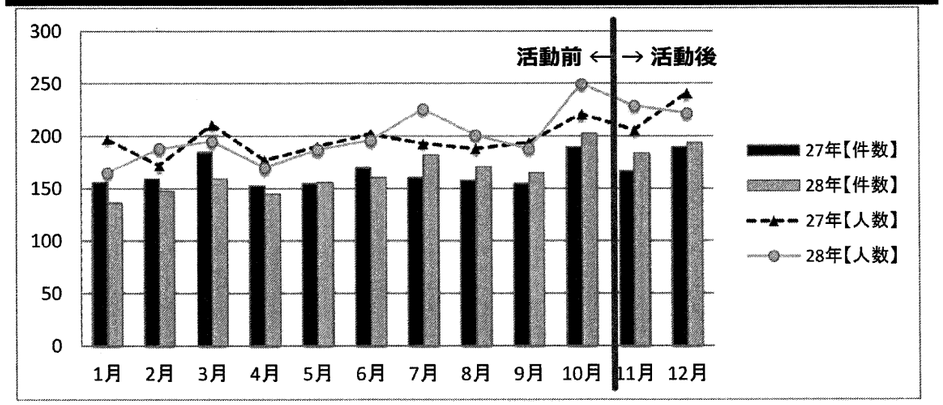
◆愛知県の交通事故死"全国ワースト１位"返上に向けた各種取組
◆自転車の交通事故防止対策
- ・「自転車の安全な利用に関する条例」制定の必要性

◆高齢者の交通事故防止対策
- ・運転免許証自主返納：愛知県の「高齢者交通安全サポート制度」の拡充

◆　今後のスケジュール

平成２９年	１月１２日（木）	市長会 幹事会
	（１月１６日（月）	市長会 西三河ブロック会議）
	（２月１０日（金）	第１回連絡会議：西三河ブロック自治体）
	２月１７日（金）	市長会 役員会
	４月２１日（金）	市長会 市長会議
	５月中旬	交通・防犯部課長会議（第２回連絡会議）※同日開催

1　豊田市の月別交通事故発生状況

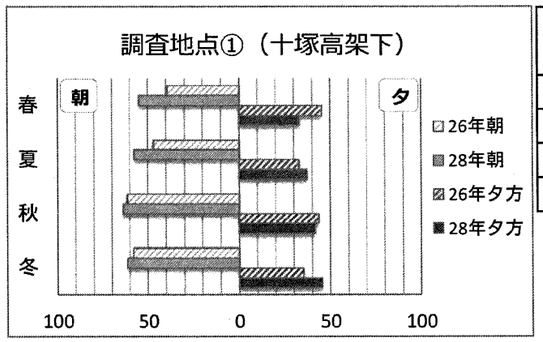


年	項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
27	発生件数	156	160	185	153	155	170	161	158	155	190	167	190
	死傷者数	197	172	211	177	190	202	193	188	194	221	206	241
28	発生件数	137	148	160	145	156	161	182	171	165	203	184	194
	死傷者数	165	188	195	170	187	196	226	201	188	250	229	222

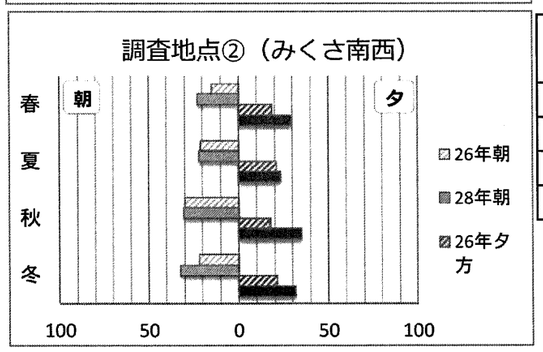
※平成28年12月は暫定数

2　STOP率調査結果（平成28年4月～12月）

【ＳＴＯＰ率（車両が止まった割合%）＝止まった台数／全台数×１００】



調査地点① STOP率	28年 朝	28年 夕	26年 朝	26年 夕
春	55.2	32.5	39.6	45.0
夏	57.9	37.2	47.1	32.5
秋	63.9	41.6	61.7	43.2
冬	61.4	45.3	58.3	35.1



調査地点② STOP率	28年 朝	28年 夕	26年 朝	26年 夕
春	23.1	29.4	14.9	18.3
夏	22.1	23.3	21.1	21.1
秋	30.6	35.0	29.7	17.4
冬	32.5	31.5	21.9	21.4

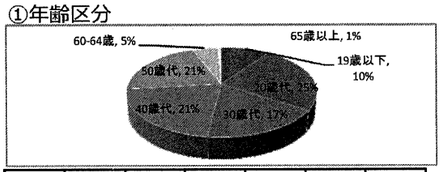
【調査方法】

歩行者又は自転車が横断歩道で待っている状態で、通行車両（二輪車含む）が止まった台数と止まらなかった台数を、朝（7:30～8:30）及び夕方（17:00～18:00）に調査した。ただし、車が全く通らずに、横断歩道を渡ることができた人数は除く。

3　市民アンケート調査

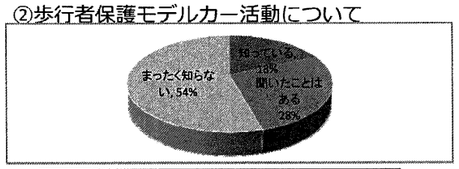
【期間】平成28年12月13日～16日　　【回答】豊田署免許更新窓口に来署の154人

①年齢区分



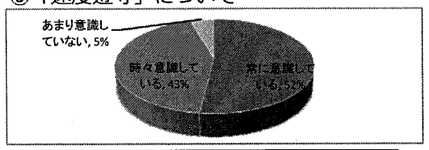
19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-64歳	65歳以上
15	38	27	33	32	8	1

②歩行者保護モデルカー活動について



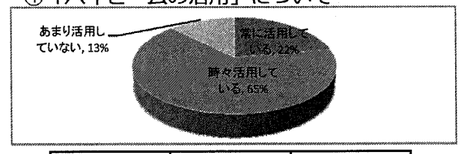
知っている	聞いたことはある	まったく知らない
28	42	83

③「速度遵守」について



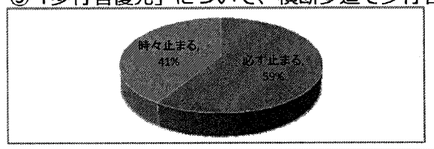
常に意識している	時々意識している	あまり意識していない
80	67	7

④「ハイビームの活用」について



常に活用している	時々活用している	あまり活用していない
34	100	19

⑤「歩行者優先」について、横断歩道で歩行者を見たら止まっていますか

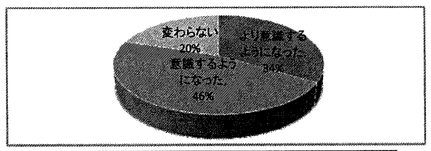


必ず止まる	時々止まる	あまり止まらない
91	63	0

4　歩行者保護モデルカー　活動事業所アンケート調査

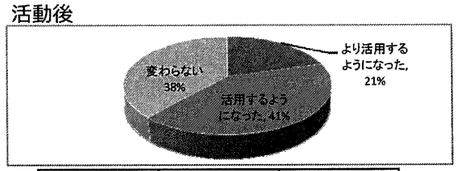
【期間】平成28年12月9日～19日　　【回答】16事業所 770人

①「速度遵守」について、活動前と活動後



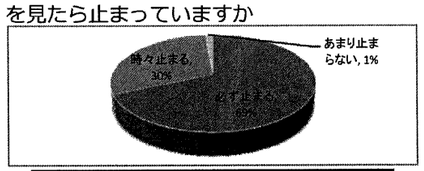
より意識するようになった	意識するようになった	変わらない
259	355	154

②「ハイビームの活用」について、活動前と活動後



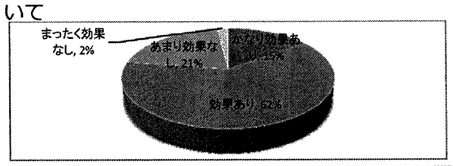
より活用するようになった	活用するようになった	変わらない
158	313	293

③「歩行者優先」について横断歩道で歩行者を見たら止まっていますか



必ず止まる	時々止まる	あまり止まらない
526	232	10

④「歩行者保護モデルカー活動」の効果について



かなり効果あり	効果あり	あまり効果なし	まったく効果なし
115	475	157	15

【自由記述欄 抜粋】「交通事故のない社会」を実現するために

・この取組を広め、ドライバー全てのマナーを向上することが事故抑止に繋がる。

・ドライバーだけでなく、歩行者や自転車利用者の交通安全教育が必要である。

・ハード面の整備（横断歩道付近を明るくする　など）

歩行者守る模範車 始動

多発する交通事故に歯止めを掛けようと、豊田市と豊田、足助の両署は11月2日から、豊田商工会議所と連携し、交通安全のＰＲ活動を始める。「歩行者保護モデルカー活動」と銘打ち、市内の14事業所が所有する車両約1000台に、交通ルールを守る模範車として走行してもらう。（岸友里）



啓発活動について話し合う（右から）水野署長、太田市長、豊田商工会議所の三宅英臣会頭、トヨタ自動車の財津裕真総務部長＝豊田市役所で

市交通安全防犯課によると、県の交通事故死亡者は十三年連続で全国ワースト。今年も二十日現在で百五十九人と、二位千葉県の百三十七人を大幅に上回っている。豊田市内では二十四日現在、前年同期比五人増の十四人で、県内では名古屋市に続いて多い。十四人のうち五人が歩行中で、全員が高齢者だ。

そこで、市と両署は「交通事故死“全国ワースト一位”返上を豊田市から！」をスローガンに掲げ、商議所の会員など民間企業と協力した交通安全対策に乗り出すことにした。

事業所は市と両署から委嘱を受け、所有する車両に「歩行者保護モデルカー」と記された黄色いステッカーを貼る。運転手には①速度順守②ハイビームの活用③歩行者優先（横断歩道で歩行者を見たら必ず止まるなど）の三項目を心掛けてもらい、安全運転のけん引役を担ってもらう。

期間は十二月末まで。状況を踏まえ、来年以降の活動継続や内容の変更を決める。

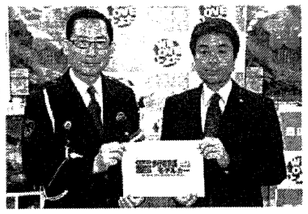
太田稔彦市長は「車の町として市の結果は常に問われている。県の全国ワースト一位返上は豊田の動きがリードする。そういう役割を担わないといけない」と強い決意を示した。

豊田署の水野正樹署長は「市民一人一人が決して事故を起こさない、という気持ちで一丸となることが大事。警察も共にしっかりと取り組んでいく」と話した。

2016年10月26日（水）中日朝刊

交通死防げ 豊田で啓発

速度順守、ハイビーム活用……



ステッカーのデザインを手にする水野署長（左）と太田市長

県内の交通事故死者数が13年連続で全国ワースト1位となっている現状を返上しようと、豊田市は、豊田、足助両署と豊田商工会議所などと連携して輪禍をなくすための「歩行者保護モデルカー活動」を開始する。

市によると、今年の県内の交通事故死者数（23日現在）は160人と、千葉県の139人を超す全国最多となっている。県内の市町村別（24日現在）では、政令市の名古屋市（52人）を除くと、豊田市の14人が最も多く、豊橋市の12人を上回っている。

豊田市と豊田署、豊田商議所とともに同市に本社があるトヨタ自動車の代表者による交通死亡事故の抑止に向けた会合が21日に市役所で開かれ、モデルカー活動の実施を決めた。

この活動は市と両署が企業などに呼びかけて、制限速度の順守や夜間のハイビームの活用、横断歩道で歩行者や自転車を見かけたら必ず止まるといった3項目を徹底する。

市内の15社が参加する予定で、11月2日に委嘱式を行う。各社の計約1000台の車にステッカーを貼って年末までアピールする。

24日に記者会見した豊田署の水野正樹署長は「事故を起こさないという気持ちを高めていきたい」と強調し、太田稔彦市長は「豊田がリードして愛知のワースト1位を返上したい」と語った。

2016年10月26日（水）読売朝刊

歩行者守る模範車 16事業所に委嘱式

豊田

豊田市と豊田、足助の両署が豊田商工会議所と連携して交通事故の抑止に取り組む「歩行者保護モデルカー活動」の委嘱式が二日、同市八幡町のスカイホール豊田であり、市内十六事業所の従業員ら二百人が参加した。各事業所の車両千二百四十一台が、速度順守など交通ルールを守る模範車として走行する。



事業所を代表して活動宣言する西三交通の岩田守豊さん（右）＝豊田市八幡町のスカイホール豊田で

太田稔彦市長は「運転手の意識を変え、豊田から車の走り方を変えたい」とあいさつ。豊田署の水野正樹署長は「横断歩道前での一時停止など、一歩一歩が交通死亡事故ゼロにつながると確信している」と話した。

式後、「歩行者保護モデルカー」と記された黄色いステッカーを貼った各事業所の車両が、町へ繰り出した。

2016年11月5日（土）中日朝刊

歩行者優先マナー徹底

県警とトヨタ自が実践

トラックやバス400台で

県警はトヨタ自動車と協力し、歩行者優先の運転を徹底した「歩行者保護モデルカー活動」を始めた。同社のトラックなどが安全運転のけん引役を担うことで、県内のドライバーのマナーやモラル向上を目指す。

モデルカー活動は、トヨタ自動車の工場間や事業所間を走る物流トラックやバス約400台で実践する。横断歩道などで歩行者・自転車を見かけたら必ず止まる▽交差点での左折時は最徐行する▽夜間のハイビームを上手に活用する――の3項目を徹底し、安全運転を心がける。

県警交通総務課によると、今月18日現在、今年の交通事故死者数は95人（昨年比5人減）と全国最多。日本自動車連盟（JAF）が今月発表した調査結果によると、自分が住む都道府県の交通マナーが「悪い」「とても悪い」と答えた割合は、愛知が59・3％と全国で6番目に高かった。

今月15日に行われたモデルカー活動の委嘱式では、伊藤彰久交通部長が「歩行者保護の模範となってもらい、一人でも多くの尊い命を守っていきたい」、財津裕真・トヨタ自動車総務部長も「プロのドライバーたちが率先して取り組んでいくことで、まち全体が変わっていくといい」と話していた。【加藤沙波】

2016年7月20日（水）中日朝刊

歩行者守る模範運転を

県警、トヨタに活動参加依頼



「歩行者保護モデルカー活動」の委嘱状を受けるトヨタ自動車の財津裕真総務部長㊧＝名古屋市中区の県警本部で

県内で多発する交通事故の防止しようと、県警はトヨタ自動車に「歩行者保護モデルカー活動」への参加を依頼した。同社の従業員らに、歩行者の保護を最優先にした模範運転をしてもらい、ドライバーの運転マナー向上を図る。活動の期間は十二月末まで。

活動では、横断歩道で歩行者や自転車を見かけた際は必ず停車する、交差点の左折時は最徐行するなどの安全運転を徹底する。

トヨタ自動車で活動する輸送トラックや従業員の輸送車両など四百台が対象となるほか、八万人の従業員にも協力してもらう。

日本自動車連盟（JAF）が六月に実施したアンケートでは、県内の交通マナーを「悪い」と感じているドライバーが六割を占め、全国で六番目に高い割合となった。県内に定着している悪い交通マナーのイメージを払拭しようと企画した。

名古屋市中区の県警本部であった活動の委嘱式で、同社の財津裕真総務部長が「歩行中に事故に遭いやすい高齢者の気持ちになった運転を心掛け、安全運転のけん引役になりたい」と意気込みを語った。（中尾吟）

2016年7月24日（土）中日朝刊

「歩行者保護モデルカー」ステッカー（市作成）



「歩行者保護モデルカー」ステッカー（ﾄﾖﾀｸﾞﾙｰﾌﾟ作成）



横断幕・懸垂幕「交通事故死"全国ワースト１位"返上を豊田市から！」





歩行者保護モデルカー活動委嘱式（平成２８年１１月２日）



別紙

回答は、下記メールアドレスかFAXで送信ください。

E-mail　nishimoto@cronos.ocn.ne.jp

ＦＡＸ　０５２－９６２－４１５４

報告期限：１月２５日（水）

市名　　市　　担当課名

愛知県の交通事故削減のための取組についての意見

項　目	回　答
取組について	
今後のステップについて	
部課長会議について	